

LIXIL

ポーチライト
LPJ-17型

取付説明書

保管用

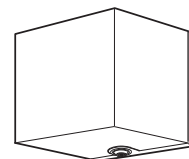
お客様へ

器具の施工には電気工事士の資格が必要です。
必ず、販売店、工事店に依頼してください。

工事店様へ

■施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。
この説明書は必ずお客様にお渡しください。

■施工説明に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。



安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。(下図は図記号の一例です。)



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

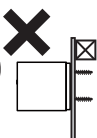


警告

■取付面

●次のような場所には取り付けない
火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

補強のない場所
(ベニヤ板や
石こうボードなど)



浴室などの
湿気の多い
場所



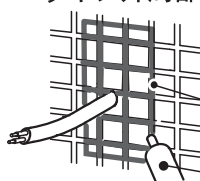
取付面が器具外形より
小さい場所



傾斜した場所や
天井面、据置き取り付け

◎この器具は防雨型、壁面取付専用です。
(防湿型ではありません。)

●取付面と本体パッキンのスキマおよび
パッキン外周部にシール剤を塗る



パッキン外周部にも
シール剤を塗る

シール剤

本体パッキンと取付面とのスキマを防水シール剤
などで埋めてください。また、背面より水のかか
る場所へ設置しないでください。
指定外の取り付けは絶縁不良による感電の原因と
なります。

■壁スイッチ

●調光機能が付いた壁スイッチの場合は、
一般の入切用スイッチに交換する
火災の原因になることがあります。



必ず守る



◎調光器の取り外しが必要です。

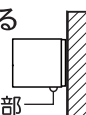
■その他

●器具の取り付けは、説明書に従い確実に
取り付けに不備があると、火災、感電、落下による
けがのおそれがあります。

●交流100ボルトで使用する

過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれ
があります。

●検知部が下になるように取り付ける
浸水による感電のおそれがあります。



検知部

●電源線は端子台の差込み穴の奥まで確実に差込む。
差込みが不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。



必ず守る



アース線接続

●接地工事は、電気設備の基準に従って確実に
接地不完全な場合、感電のおそれがあります。

注意



禁止

●温度の高くなるものの上に取り付けない

ガス機器やその排気筒の上に取り付けないでください。
守らないと火災の原因となることがあります。

●器具に直接日光が当たる状態で点灯させない

温度上昇によるランプ短寿命や一時的な明るさ低下・不点灯の原因となります。



必ず守る

●器具の取り付け取り外しは手袋など保護具を使用する

けがのおそれがあります。

施工前のご確認事項

設置場所についてのご注意

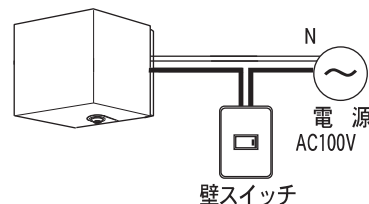
●この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に取り付けると誤動作の原因となります。

反射の強い床面のある場所 禁止	風などでよくゆれる植物の近くなど 禁止	取付高さが3mをこえる場所 禁止	換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの近く 禁止	他の照明器具に近い場所 禁止
交通量の多い道路に面した場所 禁止 車など人より大きな熱量の場合、取扱説明書記載の検知範囲より広がります	前面に障害物のある場所（透明なガラスも含む） 禁止	振動の激しいポールなど不安定な場所 禁止	昼間でも暗い場所や夜間でも明るい場所 禁止	

配線についてのご注意

■必ず、壁スイッチを設置してください。（スイッチは別途ご用意ください）

- ・センサによる動作に異常が発生したとき、リセット操作に壁スイッチが必要です。
- ・長期間使用しない時や、お手入れの際に電源を切ることができます。
- ・壁スイッチの動作による連続点灯への切り替えができます。



●通常は壁スイッチをONにした状態でご使用ください。

●ほたるスイッチと接続する場合は1回路につきスイッチ3個まででご使用ください。（4個以上のほたるスイッチと接続すると、スイッチを切にしても器具が消灯しないことがあります。）

●壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがON状態でも照明器具が消灯状態（センサ待機状態）のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。（故障ではありません）

●壁スイッチ1個で2台以上のセンサ照明器具を使用しないでください。点灯状態が、同時に切り替わらない場合があります。

●一般照明器具や換気扇との連動はできません。

検知範囲について

●検知部は真下にした状態から全方向に約20度可動します。

●センサはおおよそ右図の「検知範囲」で検知します。右図の「検知範囲」を参考にして検知部の角度を調整してください。（記載の検知範囲はあくまで目安としてお考えください。）

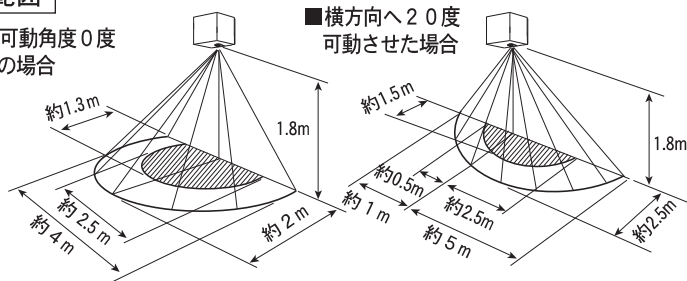
●器具の取り付け高さ1.8m（標準）～3mの間では、検知範囲は変わりません。

●センサは、人の動きなど温度変化を検知しています。

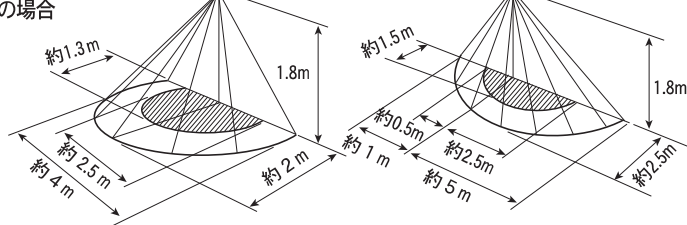
（注） は別売エリアカットフード（パナソニック（株）品番：HK279020）を取り付けた時の検知範囲です。

検知範囲

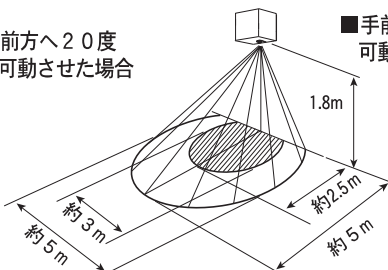
■可動角度0度の場合



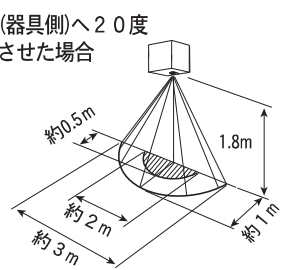
■横方向へ20度可動させた場合



■前方へ20度可動させた場合



■手前（器具側）へ20度可動させた場合



■センサ動作について

検知しにくくなる場合

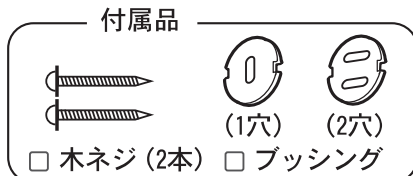
- ・肌の露出部分が少ない場合（着衣の表面温度は一般的に体温よりも周囲温度に近い）
- ・夏場など周囲温度が体温に近い場合
- ・検知部を可動させ広がった側の検知範囲
- ・検知範囲に入る速度が速い場合
- ・センサの向いている方向に向かって近づいた場合
- ・人が静止しているとき

人がいないのに点灯する場合

- ・近くに照明器具がある場合
- ・道路を通行する人、車、犬、猫などを検知したとき
- ・風、雨、木のゆれなどを検知したとき
- ・急激な温度変化を検知したとき
- ・換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの温度変化の影響を受けたとき
- ・強力な電波、誘導雷サージなど電気的雑音を受けた場合
- ・約2秒以内の短い停電（瞬時停電）が起こった場合

付属部品の確認

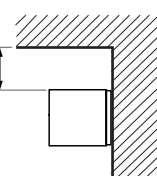
- ・付属の木ネジ(2本)、
ブッシング(1穴、2穴各1個)
があることを確認してくだ
さい。



取り付け時のご注意

- ・この器具はカバーの取り外しに
右図の空間が必要です。

天井より
15cm以上



調整ツマミの設定について

- ・この器具は取り付け後、ご使用の環境に合わせてセンサの検知範囲、調整ツマミの設定が必要です。
必ず、「検知範囲と調整ツマミを設定する」をお読みのうえ、設定してください。

各部のなまえと取り付けかた

安全のため、電源を切ってから行ってください

取り付け前の準備

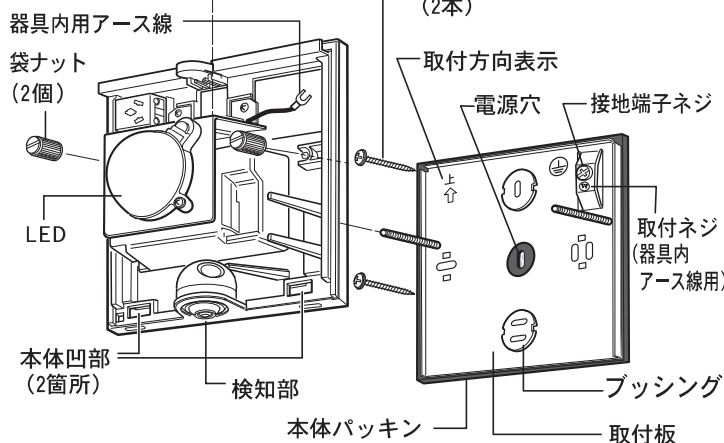
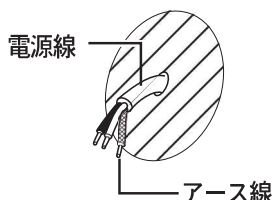
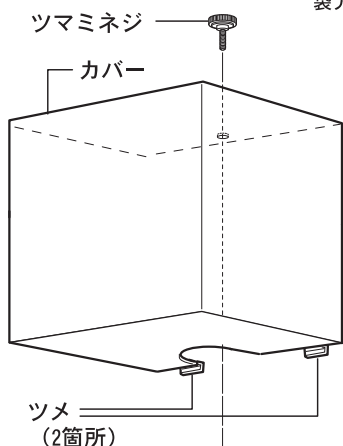
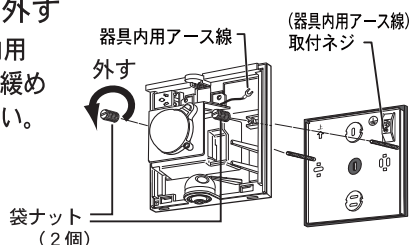
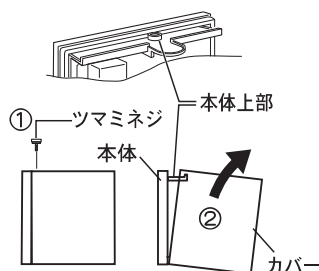
①ツマミネジを外す

②カバーを外す

カバーが前に傾いた状態で
矢印の方向に動かし、本体
上部を押しながら本体から
引き抜く

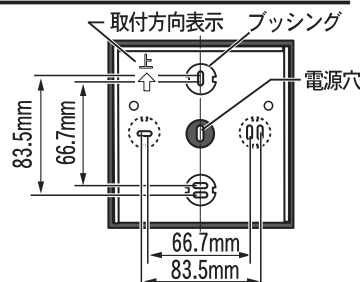
③本体から取付板を外す

袋ナット(2個)と器具内用
アース線の取付ネジを緩め
取付板を外してください。



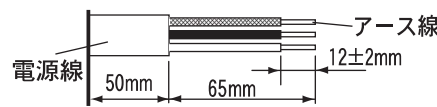
1 取付板を取り付ける

- ・器具の取付ピッチに合わせて、
ブッシングをはめる
- ・取付方向表示に従い
補強材のある場所に付属の
木ネジ(2本)で取り付ける
- ・器具取付ピッチ: 66.7mm
83.5mm



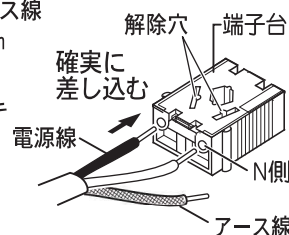
2 端子台に電源線を接続する

- ・適合電線: VVFケーブル $\phi 1.6$ 、 $\phi 2.0$ 単線



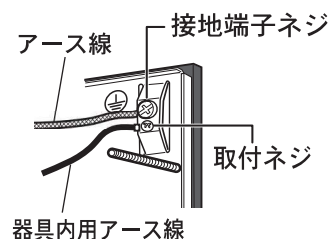
- ・電源口出し線の長さを115mm、外皮部ムキ
を65mmに設定してください。

電源線の外し方
マイナスドライバー等で解除穴を押しながら
電源線を引き抜く



3 接地工事をする

- ・接地端子ネジからD種
(第3種)接地工事を行う
アース線を取付板の
接地端子ネジに取り
付けてください。
同時に、外した器具内用
アース線も取付ネジに
取り付けてください。



4 本体を取り付ける

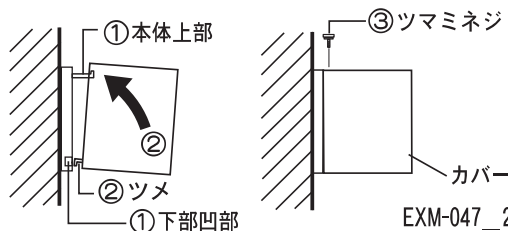
- ・袋ナット(2個)で取り付ける

5 検知部の調整と調整ツマミを設定する

- ・「検知範囲と調整ツマミを設定する」(4ページ)を
参照して設定してください。

6 カバーを取り付ける

- ①カバーを本体上部と下部凹部に合わせる
- ②カバーを矢印方向に動かしながらツメを本体凹部に引っ掛ける
- ③本体にカバーを押し当てながらツマミネジでカバーを固定する



注意



カバーは確実に取り付ける
落下してけがのおそれがあります。

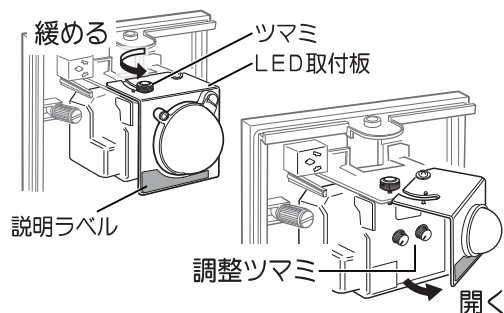
検知範囲と調整ツマミを設定する

昼間でも設定できます。

設定の前のご注意

- (1) 壁スイッチをOFFにする
- (2) カバーを取り外す
- (3) LED取付板のツマミを緩め、センサの調整ツマミが操作できる状態まで開く

- (3) 説明ラベルに従って、ツマミを緩めLED取付板を開く



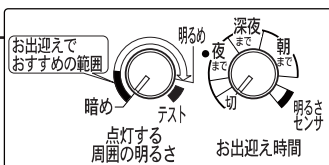
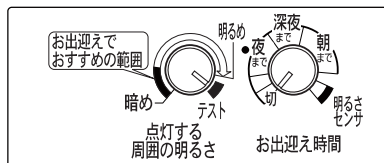
[注意] 調整ツマミの設定後は、LED取付板を必ず元の位置に固定してください。

1 センサの検知範囲を調整し、点灯確認をする

出荷時の設定

[手順]

- (1) あらかじめ、調整ツマミを以下の設定にする



点灯する周囲の明るさ——「テスト」(右いっぱい回す)
お出迎え時間——「切」(左いっぱい回す)

- (2) 検知部を動かし、設置場所に合わせて検知範囲を調整する

- 検知部は、全方向に約20度動きます。
- センサの検知範囲は、 2ページ「センサの検知範囲」を参照ください。

- (3) 壁スイッチをONにし、センサの検知範囲の外に出る

→ 約40秒間点灯してから消灯します。

消灯しない場合は、以下の原因が考えられます。

- お出迎え時間が「切」になっていない → お出迎え時間を「切」にする
- センサの検知範囲に入っている → センサの検知範囲から外に出る
- 連続点灯になっている → 壁スイッチを一度OFFにし、5秒以上おいて再び壁スイッチをONにする

- (4) 消灯したら器具に近づいて、点灯することを確認する

- センサの検知範囲の外に出てから約5秒後に消灯します。

2 壁スイッチをOFFにする

3 使いかたに合わせて調整ツマミを設定する

以下の4種類の使い方ができます。(詳しくは 取扱説明書3ページ)

使いかた	お出迎えモード	ON/OFFモード	明るさセンサモード	テストモード
動作	暗くなったら点灯 設定時刻になると消灯 設定時刻以降は人が近づいたときに点灯	暗くなって、 人が近づいたときに点灯	暗くなったら点灯 明るくなったら消灯	明るさに関係なく 人が近づくと点灯 検知範囲から出て 約5秒後消灯
おすすめのツマミ設定				
詳しい設定方法	取扱説明書4ページ	取扱説明書5ページ	取扱説明書6ページ	検知範囲を確認するときに使用

4 LED取付板を元の位置に固定し、カバーを取り付ける

上記「設定の前のご注意」(3) 及び3ページ「各部のなまえと取り付けかた」**6** 参照

5 壁スイッチをONにする

→ スイッチONにした直後は周囲の明るさに関係なく、約40秒間点灯します。

ご注意 ● お出迎えモードに設定した場合

壁スイッチをONにした初日は、手順3で設定した「お出迎え時間」ツマミの位置に関係なくお出迎え点灯は約4時間で終了します。翌日より設定した時刻通り終了します。

取扱コード

EXM-047

202202A_1009